

論文の内容の要旨

論文題目 新人看護師の臨床実践能力の向上に資する
看護チーム内の社会的相互作用に関する研究

氏 名 保田 江美

保健医療を取り巻く環境は目まぐるしく変化している。このような状況に対応するために、看護師には免許を取得してからも、自ら学びつづけ、臨床実践能力を向上させつづけることが求められており、看護師を抱える各組織で定着を促し、能力の段階に見合った育成支援を体系的かつ継続的に提供していくことが重要視されている。とくに、学生から看護師への移行プロセスが失敗に終わると看護職からの離職の可能性がある。このプロセスにリアリティショックという大きな課題を抱える新人看護師への育成支援は、各組織にとってのみならず、新人看護師個人のキャリアや今後の医療にとっても極めて重要であるといえる。

近年、これまで新人看護師の育成支援を主に担っていたプリセプターと呼ばれるマンツーマンで配置される先輩看護師の機能不全が指摘されており、新人看護師を組織全体で支える体制の構築の重要性が謳われるようになった。法改正や施策の実施という国レベルの取り組みもあり、新人看護師を育成することに関する看護職全体、看護職以外の意識が改善したとの報告がある(佐々木ら、2013)。しかし、Benner(2001)によれば、看護師は実際に業務をおこなうなかで専門的スキルを身に付け、とくに新人看護師にはこの過程における他者からの支援が重要である。新人看護師の臨床実践能力の大部分が、日々おこなわれる看護業務をとおして獲得されていくという視点を持つことが重要であり、実践の場である看護チームでどのように新人看護師を支えていくか、そのあり方を示すことが社会的にも理論的にも求められている。そこで、本論文では、新人看護師の臨床実践能力の向上に資する看護チーム内の社会的相互作用のあり方を提示することを目的とし、この目的を達成するため、看護チーム内の社会的相互作用が新人看護師の臨床実践能力に及ぼす影響を検討するという研究課題を設定し、実証的に検証した。

本論文は5章で構成される。第1章では、社会的背景として、看護が経験的

で家族に対して家庭内でおこなわれるものから専門的な業として発展した流れのなかで、看護師の育成が求められるようになったことを示した。その後、日本における看護の発展が看護師の育成に及ぼした影響について整理した。社会の変化にともない、養成教育だけではなく、継続教育への関心が高まっていたことを確認した。つづいて、日本の保健医療の現代的課題について述べ、看護師が学びつづけ、臨床実践能力を向上させつづけることが重要であること、そのためには能力の段階に見合った育成支援の提供が求められていること、継続教育のなかでもとくに新人看護師の育成、教育が重要であることを示した。新人看護師の育成の現状を整理し、これまで新人看護師の臨床実践能力の獲得に効果を示してきたプリセプターシップという支援体制の機能不全を指摘した。新人看護師の臨床実践能力の大部分が看護チームでおこなう日々の看護実践のなかで獲得されることを述べ、新人看護師の臨床実践能力の向上に資する看護チーム内の社会的相互作用のあり方を探究する必要があることを示した。

つぎに、研究上の背景として、本論における新人看護師の臨床実践能力を定義し、先行研究を整理した。新人看護師の臨床実践能力の獲得状況に関する研究は、新人看護師が獲得した臨床実践能力のレベルを、時間性をもって知ることを可能にするものの、その過程で影響を及ぼしている要因について考慮されていないという課題があることを指摘した。新人看護師の臨床実践能力の獲得に影響を及ぼす要因に関する研究では、主な要因として、他者との社会的相互作用が多くの研究で着目され、その効果が明らかになっているが、新人看護師が臨床実践能力を高めていく実践の場である看護チームという視点をもって他者との社会的相互作用に着目した研究がなされていないことを指摘した。以上より、本論文では、新人看護師の臨床実践能力の向上に資する看護チーム内の社会的相互作用のあり方を提示することを目的にすることを示した。そして、目的達成のために、看護チーム内の社会的相互作用が新人看護師の臨床実践能力に及ぼす影響を明らかにする必要性を論じ、本論文では、これらの関連を検討することを研究課題として設定することを提示した。

第2章では、はじめに、看護チームの典型的な構成を示しながら、新人看護師を中心とした看護チーム内の社会的相互作用が1対1の社会的相互作用である支援と看護チーム全体の社会的相互作用を示すチームワークとで捉えられることを論じた。つぎに、支援を定義し、その特徴を述べた。新人看護師への支援に関する先行研究を支援者ごとに整理し、プリセプターの機能不全が指摘されるなかで、プリセプター以外に日常的に新人看護師に有効な支援を提供している支援者が先行研究からは見いだせないことを指摘した。非公式の支援

者の存在の重要性について触れ、そのカギとなるのが中堅看護師であることを述べつつ、中堅看護師から提供される支援については着目がなされていない現状について論じた。つづけて、チームワークについても、本論文で採用する定義を提示した。医療の現場におけるチームワーク研究は増えつつあるものの、患者へ直接的にケアを提供する看護師から成る看護チームのチームワークには、ほとんど目が向けられていないことを述べた。少ないながらも展開され始めてきている看護チームのチームワークに関する研究を概観し、チームワークの成果を長年扱われてきたチーム単位の業績で捉えるだけでなく、個人の行動や態度、能力として捉える研究へと広がりを見せている現状を論じた。そのうえで、チームワークの成果として、新人看護師の臨床実践能力の向上という個人の能力には着目されていないことを指摘した。以上より、新人看護師を中心とした看護チーム内の社会的相互作用を中堅看護師からの支援およびチームワークとして捉え、これらと新人看護師の臨床実践能力との関連を明らかにすることが求められていることを述べた。

第3章では、看護チーム内の社会的相互作用のうち、中堅看護師からの支援に着目し、新人看護師の臨床実践能力との関連を明らかにした実証研究の成果を示した。研究からは、1) 内省支援が、「主体的な自己学習（「基本姿勢と態度」に属する）」、「患者・家族の理解と支援（「基本姿勢と態度」に属する）」、「安全確保（「技術的側面」に属する）」、「情報・安全管理（「管理的側面」に属する）」という新人看護師の臨床実践能力を、2) 業務支援が、「物品・コスト管理（「管理的側面」に属する）」という新人看護師の臨床実践能力を、3) 精神支援が、「組織理解と適切な行動（「基本姿勢と態度」に属する）」という新人看護師の臨床実践能力を、4) 目標支援が、「患者・家族の理解と支援（「基本姿勢と態度」に属する）」という新人看護師の臨床実践能力を促していた。また、5) 支援を受けた中堅看護師の経験年数が少ないほど、「安全確保（「技術的側面」に属する）」、管理的側面を構成する三つの能力の獲得を促すことが明らかになり、経験年数5～9年目の看護師の支援がより有効であることが示唆された。

第4章では、看護チーム内の社会的相互作用のうち、チームワークに着目し、新人看護師の臨床実践能力との関連を明らかにした実証研究の成果を示した。研究からは、1) チーム内で業務量をモニタリングし調整するメンバーの行動が新人看護師の臨床実践能力の「技術的側面」と「管理的側面」を、2) 対人関係を維持・強化するリーダーシップの発揮が総合的に新人看護師の臨床実践能力の「技術的側面」と「管理的側面」を、3) メンバーへの的確な指示・指

導をおこなうリーダーシップの発揮が新人看護師の臨床実践能力の「基本姿勢と態度」を、4) チーム内の対人関係の良好さが新人看護師の臨床実践能力の「基本姿勢と態度」を高めることが明らかになった。また、5) チーム・リーダーシップ（シェアド・リーダーシップ）が、新人看護師の臨床実践能力の向上に資するチームワーク形成の基盤となることが示された。

第5章では、第3章と第4章で得られた知見を統合し、看護チーム内の社会的相互作用が新人看護師の臨床実践能力に及ぼす影響について総合考察をおこない、新人看護師の臨床実践能力の向上に資する看護チーム内の社会的相互作用のあり方を提示した。新人看護師の臨床実践能力の向上に資する看護チーム内の社会的相互作用は、シェアド・リーダーシップの発揮がその基盤となっており、これがチームワークを高め、さらには新人看護師への支援をよりよいものとするという本論文の結論を示した。また、本論文で明らかになった知見から、非公式の支援者となる中堅看護師を新人看護師がを見つけやすく、その中堅看護師との社会的相互作用を発展させていきやすい環境を提供する、看護チームのチームワークを高めていくなど新人看護師の臨床実践能力の向上に資する看護チーム内の社会的相互作用を活発にする臨床現場への具体的な提案をおこなった。さらに、本研究が、新人看護師への支援に関する研究、チームワークに関する研究、新人看護師の臨床実践能力に関する研究それぞれにもつ理論的意義を提示した。最後に本研究の課題として、新人看護師の臨床実践能力に影響を及ぼすほかの要因について考慮できていない点、チームワークの測定方法の限界等について述べるとともに、本論文が今後の看護師育成や看護の発展に持つ意味について論じた。